

ハチオウ



森社長

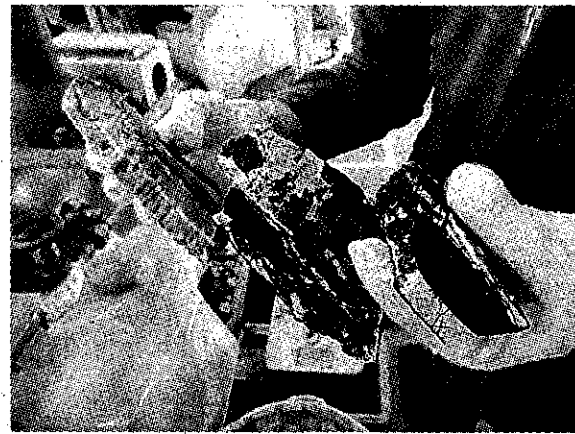
R&D部門から排出される化学系廃棄物は、コロナ禍でも減
 少せず。試薬など化学系産業廃棄物の中間処理を専門とする
 ハチオウ(東京都墨田区、森雅裕社長)は、都内での複合処理
 場の新設を通じた「域内処理システム」の確立を目指す。新設
 とともに発電事業への参入を図り、中間処理物が埋立処分に向
 ける分量を削減。動脈・静脈産業とも人口減少を前提とせざるを
 得ないなか、これらと自治体を含めた連携強化による循環型シ
 ステムの構築は重要度を増していった。

ハチオウは写真廃液や
 亜鉛凸版廃液などからの
 粗銀抽出・精錬を粗業と
 するが、写真や印刷物の
 デジタル化とともに化学
 系産業処理へと事業をシ
 フト。特別管理産業処分
 業許可のもとで①廃酸②
 廃アルカリ③汚泥④廃油
 ーを取り扱い、焼却処理
 や中和・無害化による中
 間処理を手掛ける。

化学系廃棄物は反応後
 の性状変化などを経るた
 め、廃棄時の状態はさま
 ざまだ。本社では基幹処
 理工場である八王子工場
 (東京都八王子市)の分析
 室にハザードルームを新
 設。従来は処理後廃液の
 分析を主業務としてきた
 が、内容不明物に対応す
 るニーズが増すなかで処
 理前チェックに注力。新
 規導入したX線分析機の
 応用などで廃棄物成分の
 データを蓄積していく計
 画だ。また研究機関など
 の客先に分析員を派遣し
 事故予防・安全処理につ
 ながる捨て方サポートな
 どの事業も強化している。

数年後の売上高目標と
 して現状比2倍強の25億
 円に設定するなか、この

都内でエネルギーリカバリー事業化へ 化学系廃棄物処理を域内完結



化学品残渣の中間処理物。重金属溶液などを中和処理で安定化・沈殿させて汚泥を得る

ほど新たに都内における
 エネルギーリカバリー
 (E/R)の事業化検討を
 開始。発電事業参入にあ
 たり、化学系産業のほか
 使用済み注射器など医療
 系廃棄物の取扱量拡大も
 視野に入れる。1都3県
 を主要エリアとしてカバ
 ーするなか「東京は大学
 を含む研究開発機関が数
 多く所在。試薬などの廃
 棄が他県より圧倒的に多
 い(森雅裕社長)。埋め立
 てによる最終処分地を地
 方に頼る現状を革新し、
 先端技術の恩恵を受ける
 都市内で完結できる循環
 システムを構想する。

また森氏は「人口減少
 を前提とする」成熟化社
 会と廃棄物処分の関係性
 は重要度を増してくる一
 と指摘。「一般廃棄物を言
 め、コロナ禍は人口減の
 下でも、ごみ排出量が意
 外なほど減らないことを
 証明した(同)とし、自
 治体の財政難で一般・産
 廃を問わず最終処理能力
 の不足が顕在化していく
 リスクに備える必要がある
 とする。

すでにプラスチック包装な
 ど消費財分野では、循環
 利用を前提とする製品・
 制度設計に注目が集ま
 る。だが、廃棄後の処理
 プロセスを含めて十分な
 コストをかける必要性が
 消費者に理解されるまで
 には、まだまだ時間がか
 かりそうだ。森氏は「確
 かに消費者意識は変わりつ
 つあるが、民間事業者の
 産廃処理に対する理解が
 得られるまで30年はみる
 必要がある」とする。当
 面は国内で普及済みの高
 度な焼却処理設備と関連
 技術を活用したE/Rを有
 効活用し「静脈産業は、
 その間にマテリアリサ
 イクル(MR)技術の高
 度化検討や低コスト化に
 投資を実行すべき(同)
 とした。